

一般社団法人日本呼吸療法医学会
2021 年度（第 44 期）第 3 回理事会 議事録

日 時：2022 年 5 月 26 日（木）14：00～16：00

場 所：Web 会議形式での開催

出席者：藤野裕士（理事長）、今中秀光、尾崎孝平、志馬伸朗、竹田晋浩、西田 修、
大塚将秀、讃井将満、近藤康博、内田寛治、神津 玲、茂呂悦子、山本信章
（各理事）、川前金幸、橋本 悟（監事）

欠席者：陳 和夫（理事）

[敬称略]

陪 席：小笠原聡、濱口知絵（事務局）

【開 会】（藤野理事長）

- ・理事会開催に必要な理事の過半数の出席が報告され開会が宣言された。

I. 報告事項

1. 前回理事会議事録の確認・承認（藤野理事長）

- ・前回議事録は、原案どおり承認された。

2. 持ち回り理事会（審議 1 件、連絡 4 件）決定事項の承認（藤野理事長）

- ・審議 1 件の決定事項を承認し、連絡事項 4 件を確認した。

3. 理事長報告（藤野理事長）

1) 『ECMO・PCPS バイブル』印税

- ・700,500 円（税別、部数 3,441）が 4/26 にメディカ出版より支払われた。

2) ボリュームビューカテテル製造販売終了

- ・エドワーズライフサイエンス社より届いた上記の内容を確認した。

3) 委員会活動のお願い

- ・本年度の活動状況を確認し、まだ会議を開催していない委員会に対して、8 月の定時社員総会までに今後の活動予定などを審議するよう要請した。

4. 事務局からの報告（大塚理事）

- ・会員総数は増加傾向にあり、医師会員の増加が全体を牽引している。看護師・臨床工学技士に減少傾向が見られ、理学療法士は横ばいとなっている。
- ・賛助会員は、2022 年度は 17 社となる見込みである。
- ・直近 3 年間（2019～2021 年度）の年会費納入率はいずれも 9 割前後に達し、堅調であることが報告された。

5. 学術集会準備状況

1) 第 44 回学術集会（讃井会長）

2022 年 8 月 6 日（土）・7 日（日）パシフィコ横浜ノース

「Break Through 扉を開けよう」

- ・開催方式は、現地開催と会期後のオンデマンド配信とすることを決定した。抄録については冊子の制作・事前送付は行わず、抄録アプリからの公開とする。

- ・一般演題 163 演題のほか、プログラムの詳細が固まり、企画演者・座長への依頼とともに、集客案の検討を行っていることが報告された。
- ・理事各位の協力を得て、協賛企業の状況については例年と同水準を得られる見込み。この場を借りて御礼申し上げます。

2) 第 45 回学術集会（近藤副会長）

2023 年 8 月 5 日（土）・6 日（日）ウインクあいち（名古屋）

「つなぐ ～ニューノーマルへ～ Connecting the Dots」

- ・大塚前会長より情報共有を得て、協賛企業獲得に向けて趣意書を準備中であることが報告された。近日中に、プログラム委員会を立ち上げる予定である。

3) 第 46 回学術集会

2024 年 6 月 28 日（金）・29 日（土）天童ホテル（山形、中根正樹会長）

6. 事業報告

1) セミナー事業

- ・第 51 回日本呼吸療法医学会セミナーは受講申込 800 名を定員として募集を終了した。6/1～7/31 の 2 カ月間を受講期間としてオンラインセミナーを実施する。
- ・呼吸療法専門医試験受験水準医師を対象とする第 1 回医師向けセミナー Refresher コース（オンライン）の 10/1～11/30 開催に向けて、6 名の講師に講演依頼を行う。受講料は 12,100 円（税込）、受講申込 300 名を目標とする。

2) 呼吸療法専門医研修施設 2022 年度〈更新・新規〉申請状況（藤野理事長）

- ・4/1～5/31 を申請期間とし、5/20 時点で更新 9 施設（対象 16 施設）、新規 6 施設からの申請が届いている（その後、更新 12 施設、新規 11 施設からの申請をもって受付を終了した）。

7. 各委員会報告

1) 将来計画・財務委員会（藤野委員長）

- ・持続可能な学会組織の構築を目指して活動を行い、若手の積極登用による代議員数の維持（111 名）、財務改善（内部留保 1 億円）などの成果が報告された。
- ・他学会との連携を引き続き検討し、本会の特長を活かした学会の柱となる事業の構築や、学術研究の推進を進める方針を確認した。

2) 人工呼吸編集委員会（今中理事）

- ・『人工呼吸』第 38 巻第 2 号（2021 年 11 月）、第 39 巻第 1 号（2022 年 5 月）の発行と、第 39 巻第 2 号（2022 年 11 月）、第 40 巻第 1 号（2023 年 5 月）の企画案が報告された。
- ・2021 年度は投稿数が 21 件で、前年度の 23 件と同水準だった。2022 年度は現時点で 8 件の投稿があった。
- ・2021 年度『人工呼吸』論文賞授賞者として 3 編を推薦し、理事会で承認された。本年の第 44 回学術集会で表彰を行う予定。
- ・ユーザーレポート・広告の掲載状況は、第 37 巻（2020 年度）がそれぞれ 9 社・2 件）、第 38 巻（2021 年度）がそれぞれ 8 社・2 件という結果となった。
- ・投稿規定に、投稿時には“責任著者”（corresponding author）を明記すること、参

考文献において抄録は発行後 5 年以内のものに限る、とする 2 点の改訂を行い承認を得た。

- ・過去の機関誌『人工呼吸』の全記事を、第 1 巻からすべてスキャンしホームページ上に公開した。今後、発行から 1 年が経過した依頼論文についても J-Stage で公開を行うことが承認された。
- ・用語集の改訂は、Ad hoc 委員会を設置し、編集委員長の竹内宗之先生を Ad hoc 委員長として作業を進めていくことが承認された。

3) 代議員審査委員会 (西田理事)

- ・2022 年 3～4 月に、2 年に一度の代議員〈更新・新規〉申請を受付けた。審査の結果、更新 96 名、新規 14 名、合計 110 名の次期代議員候補者を選出し、理事会で承認されたことが報告された。

4) 小児在宅人工呼吸検討委員会 (尾崎理事)

- ・第 44 回学術集会での発行に向けて『小児在宅人工呼吸療法マニュアル第 2 版』の制作が以下のとおり進められていることが報告された (B5 判、288 頁程度、カラー、5,000 円〈税別〉、2,000 部)。
- ・2,000 部完売時には 80 万円の印税収入が見込まれており、一方 350 部は学会が先行買取を行い (175 万円〈税別〉)、関係者への直販などに活用する。

5) セミナー委員会 (大塚理事)

- ・2021 年度は、第 50 回日本呼吸療法医学会セミナー (オンライン) を開催した。
対象：メディカルスタッフ
概要：期限内に全講義 (35 分×9 講義) を視聴 (早送り、飛ばし見防止機能) 視聴後、確認テスト合格 (合格するまで再解答) をもって修了証を発行
担当：(プランナー) 春田良雄 委員
期間：2021 年 6 月 1 日～7 月 4 日 (受付：3/22～4/19)
申込：568 名 (全講義視聴完了者 549 名 96.7%、受講修了証 540 名)
点数：3 学会合同呼吸療法認定士の更新・受験申請点数 (25 点) 付与
受講料：7,000 円 (税込、テキスト代含む)
収支：受講料収入 361 万円、支出 274 万円、総計 874,924 円の黒字
- ・2022 年度は、以下の 3 セミナーを計画。
- ・第 51 回日本呼吸療法医学会セミナー (オンライン)
対象：メディカルスタッフ、定員 800 名
講義：セミナー委員、9 講義 (1 講義あたり 35～50 分)
担当：(プランナー) 大藤 純 委員
日程：講演依頼 2/1～3/31、受付期間 4/1～5/20、受講期間 6/1～7/31
受講料：7,700 円 (税込、テキスト代含む)
点数：3 学会合同呼吸療法認定士の更新・受験申請点数 (25 点) 付与
- ・第 1 回医師向けセミナー **Refresher** コース (オンライン)
対象：呼吸療法専門医試験を受験する水準の医師
講義：セミナー委員など、6 講義

担当：(プランナー) 方山真朱委員

教材：『呼吸療法専門医テキスト 2021』を活用

目的：筆記試験と本セミナーを連動させて双方を活性化

講師がテキストの担当項目を評価し改訂に役立てる

日程：講演依頼 6/1～7/31、受付期間 8/1～9/20、受講期間 10/1～11/30

受講料：12,100 円 (税込)、集客目標 300 名

・第 12 回医師向けセミナー Basic コース (オンライン)

対象：呼吸管理を専門としない医師・研修医など人工呼吸器の初学レベル

講義：セミナー委員など、7 講義

担当：(プランナー) 長嶺祐介 委員

内容：前回 (2019 年 9 月) の Basic と同じ企画

日程：講演依頼 10/1～11/30、受付期間 12/1～1/20、受講期間 2/1～3/31

受講料：12,100 円 (税込)、集客目標 300 名

- ・2022 年度からサンプラネット社にオンライン運営・テキスト製作発送を委託することが報告された。
- ・事務局業務を、セミナー委員会事務局から本体事務局に集約することとした。また、上記の委託先変更にもなう業務内容の変化にあわせて、1 セミナーあたりの受託費を従来の 70 万円からメディカルスタッフ向け 15 万円、医師向け 10 万円へと変更を検討し、承認された。
- ・西田理事より、日本集中治療医学会のハンズオンセミナーとの共催案が提案され、講師派遣など協力できるところは前向きに検討することとした。

6) チーム医療推進委員会 (尾崎理事)

- ・今後の活動の方向性が検討課題となっており、引き続き議論を行っていくことが報告された。

RST プロジェクト (大塚理事)

- ・現時点で RST 認定登録施設数が 40 施設であることが報告された。
- ・認定施設をホームページで公開した。学術集会会場でブースを出展するなど、引き続き登録募集を呼びかけるとともに、登録情報の確認・解析を行っていく。

7) 安全対策・危機管理委員会 (内田理事)

- ・人工呼吸器の作動停止事例情報 (2021 年 7 月～2022 年 6 月) について、以下のとおり報告された。機種による偏りは認められなかった。
→情報提供数：5 件 (実害なし 3 件、死亡 0 件、後遺症あり 0 件)
(アラーム鳴動 2 件、停止に気づいたもの 3 件)
- ・次回第 45 回学術集会 (2023 年 8 月) で、停止事例にかかる年次推移などを委員会報告として発表いただくこととした。
- ・医療安全全国共同行動 2022 年度定時社員総会が 6 月 30 日に予定され、中根委員長・内田理事が出席することが報告された。
- ・『人工呼吸器安全使用のための指針 (第 2 版 2011 年)』の改訂を予定している。
- ・本委員会の次年度の人事について、担当理事は、職責指定理事としての就任が内定し

ている中根正樹先生に担当いただくこととした。

8) 専門医委員会（藤野理事長）

- ・呼吸療法専門医・研修施設の 2021 年度〈更新・新規〉認定結果が報告された。認定数は 2021 年度末時点で、施設 119・専門医 272 名となった。
- ・2021 年度の筆記試験は受験者 37 名中 28 名が合格した。客観問題 15 間については識別指数を算出し、全問題で 0.2 以上となった。正答率も 20%を下回るものではなく、どの問題も適正範囲に収まる結果となった。
- ・研修施設不在県が 1 県まで減少した（和歌山）。
- ・第 44 回学術集会で、2 コマが専門医更新講習として設置された。
- ・『呼吸療法専門医テキスト 2022』は、8 月に会員専用ページにて公開予定である。
- ・本年度の筆記試験は 12 月 3 日（土）に新大阪で実施する。客観問題 20 問（5 択）＋記述問題 1 問（4 題から選択）の合計点 6 割以上を合格とする。

9) ECMO プロジェクト委員会（竹田理事）

- ・沖縄支援（2021 年 6 月）、東京支援（2021 年 8～9 月）の期間中は、毎日 Web 会議を開催し、医療状況・医療ニーズ・支援計画について審議を行った。その他、COVID-19 発生状況、支援計画、講習会計画について、適宜 Web 会議を実施した。
- ・日本 ECMOnet との協働で、人工呼吸/ECMO 講習会を全国 17 都道府県で計 32 回開催した（2021 年 7 月～2022 年 3 月）。
- ・前年度に続き、電話・インターネット相談窓口を開設し（24 時間対応、土日祝含む）重症 COVID-19 患者の診療相談・出張往診等を実施した。電話対応件数は 110 件であった（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）。
- ・重症 COVID-19 症例のレジストリー（CRISIS）運営・維持を行った。全国 ICU の空床状況をリアルタイムで管理し人工呼吸/ECMO を使用した患者の転帰調査となっている。症例登録の簡便化を検討中。
- ・ECMO プロジェクト委員会・日本 ECMOnet より、論文を執筆し発表した。
- ・日本救急医学会 ECMO ネットワーク特別委員会、日本集中治療医学会 ECMO プロジェクト委員会、本委員会の 3 委員会で連携し、日本の ECMO 治療体制向上に向けて協働する。

10) 利益相反委員会（西田理事）

- ・日本医学会の COI 表示を注視し、本会の規定を確認した。
- ・引き続き、日本医学会の COI 表示を注視していく。

11) 社会保険委員会（志馬副委員長）

- ・内保連の加盟状況を以下のとおり確認した。
 - ①加盟認定：2018 年度より加盟
 - ②代表委員：陳委員長、山田委員、志馬理事の 3 名を登録
 - ③診療領域別委員会：01. 検査関連委員会 03. リハビリテーション関連委員会
10. 呼吸器関連委員会 20. 在宅医療関連委員会
- ・令和 3 年度第 2 回診療報酬調査専門組織（医療技術評価分科会）が 2022 年 1 月 18 日に行われ、「D222 経皮的血液ガス分圧測定 1,2 及び算定要件（1）イの修正」つい

ては「別途評価を行うべき根拠が十分に示されていない」として、今回の改定では対応を行わない技術となった。

12) 倫理委員会（志馬理事）

- ・第 43 回学術集会において、ワークショップ「人工呼吸に関する倫理的問題—事例をもとに一」を委員会として実施した。
- ・倫理検討症例登録について引き続き検討を行う。

13) 学術集会あり方検討委員会（西田委員長）

- ・抄録アプリについて、理事長、各会長とで審議を行い、第 44 回学術集会から各回の抄録を蓄積できる本棚機能を備えたプランを採用することとした。初回の経費の一部は学会本体が負担し、次回以降のランニングコストは各会長が負担する。

14) 学術研究推進委員会（志馬委員長）

- ・RedCap については大阪大学が所有するアカウントを利用し、代表者を藤野理事長とする。後任も阪大で責任者を立て、継続利用できる体制を取る。
- ・VAE に関する多施設共同前向き観察研究では 1,000 例を超える症例登録があり、第 43 回学術集会で中間解析を発表した。
- ・COVID-19 関連では、内閣府 SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）「AI（人工知能）ホスピタルによる高度診断・治療システム」研究における新型コロナウイルスの治療薬・ワクチンの開発に資する「データ連携基盤」の構築プロジェクトに参加している。
- ・High flow nasal cannula にかかる近藤理事の研究も同時に進行中。
- ・今後の活動として、複数施設の参画を得て、企業からの寄付金を各施設に分配するプロジェクトの立ち上げを 1 つの形として検討中。

15) 自発呼吸アセスメント指針作成ワーキンググループ（尾崎委員長）

- ・2020 年度から、改訂第 2 版の制作を目的とした新たなワーキンググループを始動し 6 年以内の改訂を目指している。
- ・改訂第 2 版の制作において、項目に打診・聴診・小児を加える。また音声映像についても検討を行う。ただし財源に限りがあり適切な予算の見積を行うこととした。

16) 気管吸引ガイドライン改訂ワーキンググループ（尾崎理事）

- ・2013 年に発行された標記ガイドラインの改訂に向けて、文献レビューや検索、内容解釈、統計解析などを担当する協力員の最終選考をワーキンググループ（WG）で行っている。
- ・今回は Minds の診療ガイドライン作成指針に沿って CQ から再構成して進める方針とし、CQ の設定や本文の執筆などは WG 委員が担当する。
- ・役割分担を決定した後、診療フローと CQ&PICO 作成をしながら、段階的に評価委員の人選・SR 委員の割り当て、という手順で進める予定である。

17) ARDS 診療ガイドライン作成統括委員会（讃井委員長・橋本前委員長）

- ・英語版を日本呼吸器学会・日本集中治療医学会の英文誌に投稿し、7 月中の掲載を進めている。また、和文の委員会報告についても 3 学会の各学会誌に 7 月中の掲載を予定している。

- ・本ガイドラインの動画解説シリーズを、m3 社が無償で録画を行い一定期間公開することで、3 学会が合意した。
- ・『人工呼吸』39-2 号での委員会報告掲載にあわせて、本ガイドラインの解説記事の執筆を竹内宗之先生にお願いする。

8. その他

1) 今後の理事会日程

- ・第 4 回理事会（集合形式） 8 月 5 日（金）14：00～15：00（パシフィコ横浜）
- ・2022 年定時社員総会 同日 15：30～17：30（パシフィコ横浜）

II. 審議事項

第 1 号議案 委員会人事（大塚理事）

1) 社会保険委員会

- ・陳委員長の任期満了にともなう志馬伸朗委員の次期委員長就任が承認された。

2) 気管吸引ガイドライン WG

- ・横山俊樹代議員、河合佑亮会員、笹沼直樹会員の委員就任が承認された。

第 2 号議案 代議員審査結果（西田理事）

- ・新規申請 15 名のうち、1 名（Dr）は専門医資格を有していなかった。
- ・更新申請 100 名のうち、更新を希望する 96 名の活動状況を確認したところ、2020 年に就任した代議員 1 名は、COVID-19 のため第 41～43 回学術集会への参加がかなわなかった。
- ・上記を考慮し代議員審査委員会で審議した結果、新規 14 名・更新 96 名、合計 110 名の就任を認める上申があり、承認された。

第 3 号議案 第 44 回学術集会参加費・予算案（讀井会長・藤野理事長）

- ・今回の学術集会では会場費が例年より高額となっており、例年より参加費を高くすることで収入増を図り、一方、経費削減を目的として、学術集会前日の準備を初日の午前中に行い、1 日半の会期としたことが報告された。ただし、参加費に見合う充実したプログラムとし、多くの来場者が得られるよう引き続き企画を進めることが報告された。
- ・ランチョンセミナーについては理事各位のご支援もあり 10 枠の協賛が得られたが、企業展示は十分ではなく、収入は当日参加費の多寡に左右されるところが大きい。
- ・上記をふまえ、参加費と予算案は以下のとおり承認された。

【参加費】

医師（会員）	（非課税）	18,000 円
医師（非会員）・一般	（税込）	19,300 円
メディカルスタッフ（会員）	（非課税）	15,000 円

メディカルスタッフ（非会員）	（税込）	16,000 円
研修医	（税込）	10,000 円
学生（学部学生のみ）	（税込）	3,000 円

【予 算】 （収入） （支出）

事業収入		準備費	22,930,000
参加費	24,745,000	当日運営費	
共催費	25,300,000	会場費	23,000,000
出展他	22,660,000	設備費	5,000,000
補助金等収入	2,000,000	映像音響	12,000,000
助成金収入	2,000,000	配信費	2,000,000
		その他	11,000,000
		招聘費・接待費	1,000,000
		事後処理費	53,300
合 計	76,705,000	合 計	76,983,300

第 4 号議案 2021 年度事業報告および決算書類承認の件（大塚理事、川前・橋本監事）

<収 入>

- ・年会費：会員数の増加、納入率の改善などにより、前年度より 86.3 万円の増となった。年度内の納入率は約 89.2%となり、未収金は 177.8 万円となった。
- ・事業費：年 3 回の開催を予定していたオンラインセミナーが 1 回のみとなり、予算より 6,363,635 円減となった。
- ・広告費：機関誌 1 号は広告 1 社・ユーザーレポート 4 社、2 号は広告 1 社・ユーザーレポート 5 社となった。バナー広告に 1 社/年の申込があり、24 万円を計上した。
- ・機関誌販売：雑誌販売は 5 冊、別刷販売は 1 社 30 万円増、文献使用料・許諾料は 497,046 円減となり、前年度より 203,019 円減となった。
- ・当期収入は 80,306,946 円、学術集会関連を除くと 25,089,656 円となった。予算より 5,260,325 円減となるが、セミナー関連まで除くと 1,103,310 円増となる。

<支 出>

- ・機関誌等発行費：前年度より機関誌が合計 54 頁減となり、313,080 円の減となった。
- ・事業費：セミナーをオンラインで再開し、全体としては前年度より 1,030,194 円の増となった。
- ・委員会費：委員会全体の活動は前年と大差なく、ARDS 診療ガイドラインの制作費増により、前年度より 545,244 円の増となった。
- ・理事会費：本年度はすべての理事会が Web 会議方式となり、前年度より 200,455 円の減となった。
- ・社員総会費：電信による社員総会開催により、前年同様経費はかからなかった。
- ・当期支出合計は 68,420,971 円、学術集会関連を除くと 16,498,228 円となった。

- ・次年度繰越利益は 102,198,519 円となった。

＜収支合計＞

- ・単年度収支は 11,885,975 円の黒字、学術集会を除いても、8,591,428 円の黒字となった。

＜監査報告＞

- ・川前監事・橋本監事から、会計監査を行い、適切に運用されていることを確認した旨の報告があった。
- ・以上、2021 年度決算について、承認された。

第 5 号議案 2022 年度事業計画および収支予算の件（大塚理事）

＜収 入＞

- ・会費収入：2022 年 5 月 1 日時点の会員数にもとづき計上した。
賛助会員が 17 社に増え、その分を計上した。
- ・事業収入：医学会セミナーを年 1 回（800 名）、医師向けセミナーを年 2 回（600 名）として、参加費収入を計上した。
- ・広告収入：1 号の広告・ユーザーレポート掲載料は実費を、2 号は見込額を計上した。
- ・書 籍 等：『ECMO・PCPS バイブル』の印税 70 万円を計上した。
- ・学術集会：会長試算による予算案どおり計上した。
- ・以上、当期収入予算は 106,839,500 円、学術集会関連を除くと 32,134,500 円となった。

＜支 出＞

- ・機 関 誌：1 号の発行諸経費にもとづき計上した。J-Stage 掲載費用として、本年度の投稿論文 20 編を見込んで 14 万円を別刷印刷代等の項目に計上した。
- ・書籍費用：小児在宅第 2 版の 350 部買取額を計上した。
- ・事 業 費：医学会セミナーを年 1 回、医師向けセミナーを年 2 回として、セミナー予算にもとづき計上した。
- ・委員会費：各委員会の前年実績などにもとづき計上した。
- ・学術集会：会長試算による予算案どおり計上した。
- ・専門医等：『呼吸療法専門医テキスト 2022』の編集費などを計上した。
- ・雑 費：過去の機関誌 PDF 化・公開費用を見積にもとづき計上した。
- ・そ の 他：理事会費・交際費・社員総会費・事務局費・通信費・租税公課・支払手数料・事務用消耗品費・法人税等を前年度にもとづき計上した。
- ・以上、当期支出予算は 100,228,300 円、学術集会を除くと 23,245,000 円となった。

＜収支合計＞

- ・単年度の収支は約 660 万円の黒字予算となることが報告された。
- ・以上、2022 年度予算について承認された。

第 6 号議案 次期職種指定理事候補承認の件（藤野理事長）

- ・今期をもって職種指定理事の任期満了を迎える神津 玲理事（理学療法士）、山本信章理事（臨床工学技士）の後任として、以下 2 名が現理事会からの推薦者として承認

された。

石井宣大 代議員（東京慈恵会医科大学附属柏病院 臨床工学部）臨床工学技士

玉木 彰 代議員（兵庫医科大学 リハビリテーション学部）理学療法士

第7号議案 投稿規定の改訂と用語集 WG 設置（今中理事）

1) 投稿規定

- ・投稿時に「責任著者」を記載し、掲載論文にも明記する点と、参考文献として抄録は発行から 5 年以内のものに限るとする改訂について委員会より上申があり、承認された。

2) 用語集 WG 設置

- ・2015 年に改訂を行い第 2 版として公開中の本会の用語集について、第 3 版を制作すべく WG を立ち上げること、その委員長に竹内宗之人工呼吸編集委員長が就任することについて上申があり、承認された。

第8号議案 監事の定年について（藤野理事長）

- ・監事は理事会を監査する立場として理事長や会長といった要職の経験が求められるが、現行の規定（定款施行細則）では監事は代議員の任期満了と同時にその資格を失い、適任者の選任が難しい状況にあった。
- ・関連学会の監事にかかる規定などを参考に、本理事会終了後、ただちに監事の選出にかかる定款施行細則を変更する持ち回り審議を行い、次期役員選挙に備えることとした（その後の持ち回り審議の結果、監事の要件は①代議員またはその経験者で、②呼吸療法専門医資格を有し、③立候補届出時点で 68 歳未満、とする変更が承認され、任期に上限は設けないこととなった）。

第9号議案 総務委員会の設立について（藤野理事長）

- ・本会の組織では、広報、国際交流などの担当委員会が設置されておらず、一方、学会の方針や財務といった総務的な部門は将来計画・財務委員会が広くカバーしている。
- ・将来計画・財務委員会を「総務委員会」として改称し、その内部に各部門を設け担当委員を任命する案が上申され承認された。詳細については継続審議とした。